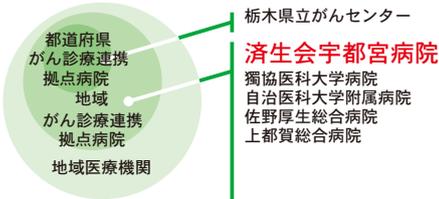


地域がん診療連携拠点病院

当院は「地域がん診療連携拠点病院」として、地域の医療機関や他のがん診療連携拠点病院との連携を密にして、より良いがん診療を提供していきたいと考えています。当院では1階「がん相談支援センター/医療相談・看護相談室」で、専門的知識を有するスタッフが、がんに関するさまざまな質問や相談におこたえしています。



医療機能評価認定病院

医療機能評価とは、『財団法人医療機能評価機構』が医療機関の第三者評価を行い、質の高い医療サービスを提供していくための支援を行うことを目的としています。当院は、平成10年に栃木県で初めて認定を受け、以後5年毎に更新認定を受けております。最近では、平成25年2月に4回目の更新審査を受け、認定されました。



地域医療支援病院

地域医療支援病院は、他の病院または診療所から紹介された患者さまに対して医療を提供していること、医療機器などを地域の医療機関と共同利用できること、救急医療を担っていること、地域の医療従事者のために研修を行っていること、などの役割があり、都道府県知事の承認を受けます。

当院は「地域と共に進化し続ける病院」のビジョンの下、急性期医療・救急医療を担い、ますます信頼される病院を目指していきます。

リレーエッセイ

釣りに魅せられて



薬剤部長
小林 義美

若い頃から兄に連れられて、近所の沼でフナやコイなどを釣って遊んでいました。それから様々な釣りを経験し、この病院に就職したところからヘラ鮒釣りの魅力にはまざりました。ヘラ鮒釣りの最大の魅力は、四季を通じてその折々の釣りを楽しめることです。春には、思いもよらない大釣りの夢があり、夏には糸鳴りのする豪快な引きを堪能できる喜びがあり、秋には刻々と変わるタナ（泳層）を読みとる楽しみがあり、冬には浮子の微妙な変化を捉える繊細さを味わうことができます。とはいえ、近頃はヘラ鮒も進化したのか、針のついた餌を喰わなくなりました。釣れないことがしばしばです。釣れないからと言ってカッカしてしまふと、さらに事態は悪く

なる一方です。そんな時は「Study to be Quiet」と自分の心に言い聞かせるのです。世界の釣り人のバイブルとして愛読され続けている『釣魚大全』の結びの言葉として、日本の釣り人達の間で広く引用されている言葉です。「ただ謙虚に穏やかに満ち足りた気持ちで過ごすことができる人こそが、幸いな人なのです。穏やかな気持ちでいれば、自分も、他も幸せになれる」と言うような意味だそうです。少し気持ちが落ち着きますが、それでも釣れないときは釣れないのです。



ちょこっとメモ

7月12日

人間ドックの日

日本で1954年のこの日に国立東京第一病院（現・国立国際医療センター）で初めて人間ドックが行なわれたことを記念して、「人間ドックの日」と定められました。

「人間ドック」の「ドック(dock)」は、もともとは船の修理や検査をしたりする施設のことで、それを人間に当てはめて、人間も時々病院で徹底的に検査を受けて悪い所があったら治しましょう、という発想からきているそうです。

当院の健診センターでも人間ドックを実施しておりますので、今まで人間ドックを受けたことがない方も、病気の早期発見・早期治療のために人間ドックを受診してみてもはどうでしょうか。



編集後記

みやのわ 編集スタッフのわ



みやのわを最後までお読みいただき、ありがとうございます。

6月7月は何と言ってもサッカーワールドカップ。皆さんもご覧になりましたか？日本代表選出メンバーへの期待も、グループリーグ敗退という残念な結果になりましたが、それでも監督とチームの絆には目頭が熱くなる場面もありました。4年後は、歓喜で胸を熱くしてほしいですね。

みやのわ編集スタッフも新メンバーが選出され、今号より編集に携わっています。私達も日本代表のチーム力に負けないよう、編集長を中心に、充実した、楽しく、そしてお役に立てる誌面づくりを心がけてまいりますので、今後もお手に取っていただけましたら幸いです。

また病院ホームページにもみやのわを掲載していきますので、こちらもぜひご利用ください。